



## SMDI ボイスメールの統合

---

Simplified Message Desk Interface (SMDI) は、電話機システムが、着信コールをインテリジェントに処理するために必要な情報を、ボイスメールシステムに提供する方式を定義します。電話機システムは、コールをルーティングするたびに EIA/TIA-232 接続経由で SMDI メッセージをボイスメールシステムに送信し、使用している回線、転送しているコールのタイプ、およびコールの発信元と宛先に関する情報を通知します。

SMDI 対応のボイスメールシステムを Cisco Unified CallManager に接続するには、次の 2 通りの方法があります。

- Cisco Unified CallManager への標準シリアル接続を使用する。
- Cisco アナログ FXS ゲートウェイへの POTS 回線接続を使用する。

この章の構成は、次のとおりです。

- [SMDI ボイスメールの統合の要件 \(P.30-2\)](#)
- [SMDI 用のポートの設定 \(P.30-2\)](#)
- [Cisco Messaging Interface の冗長化 \(P.30-3\)](#)
- [SMDI 設定チェックリスト \(P.30-5\)](#)
- [参考情報 \(P.30-6\)](#)

## SMDI ボイスメールの統合の要件

Cisco Messaging Interface サービスを使用すると、Cisco CallManager Release 3.0 以降の環境で外部ボイスメールシステムを使用できます。

このボイスメールシステムは、次の要件を満たしている必要があります。

- ボイスメールシステムには、ヌル モデム EIA/TIA-232 ケーブル（および使用可能なシリアルポート）を使用してアクセスできる simplified message desk interface（SMDI）が必要。
- ボイスメールシステムでは、音声回線の接続にアナログポートが必要。
- Cisco Unified CallManager サーバには、SMDI 接続に使用するシリアルポートまたは USB ポートが必要。
- FXS ポートが設定されている Cisco Access Analog Station Gateway、Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイ、Cisco VG200 ゲートウェイ、または Cisco Catalyst 6000 8 ポート T1 ゲートウェイがインストールされていて、設定済みであることが必要。
- ゲートウェイがルートパターンに設定されていることを確認することが必要。詳細については、『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「ルートパターンの設定」の章を参照してください。

## SMDI 用のポートの設定

Cisco Unified CallManager の以前のリリースでは、SMDI と Cisco Messaging Interface を使用して、ボイスメールの統合のために特別な設定を行う必要がありました。この FXS ポートに対する従来の設定方式では、アナログ アクセス ゲートウェイ（Cisco AS-2、Cisco AS-4、Cisco AS-8、または Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS ゲートウェイ）の個々のポートをルートグループの別々のエントリとして、明示的に設定しなければなりません。各アナログ アクセス ポートのルートリストまたはルートグループ内での相対的な位置が、Cisco Messaging Interface によって報告される SMDI ポート番号を決定していました。

Cisco CallManager リリース 3.0(5) 以降では、Cisco Unified CallManager の管理ページを使用して SMDI ポート番号を設定できます。

ボイスメールシステムとのインターフェイスに Cisco Catalyst 6000 8 ポート T1 ゲートウェイ(6608)を使用する場合は、T1 スパンごとに SMDI ベースポートを設定する必要があります。

新しい SMDI ポート番号の設定を使用する手順は、次のとおりです。

1. ボイスメールシステムに接続する各アナログ アクセスポートを変更して、SMDI ポート番号の設定値をアナログ アクセスポートの接続先であるボイスメールシステムの実際のポート番号と同じ値にする。  
この最初のステップでは、ルートリストまたはルートグループを変更する必要はありません。新しく設定した SMDI ポート番号が、ボイスメールシステムに接続するデバイスに対して設定されたルートリストまたはルートグループの既存設定を上書きします。
2. この新しい設定を利用して Cisco Unified CallManager のシグナリング要件を低減するには、従来の設定方式用にセットアップされているルートグループ内のアナログ アクセス デバイスをそれぞれ変更する。ルートグループ内でデバイスの個々のポートを識別している複数のエントリを 1 つのエントリに変更し、そのエントリでポートの選択として「すべてのポート」を指定します。

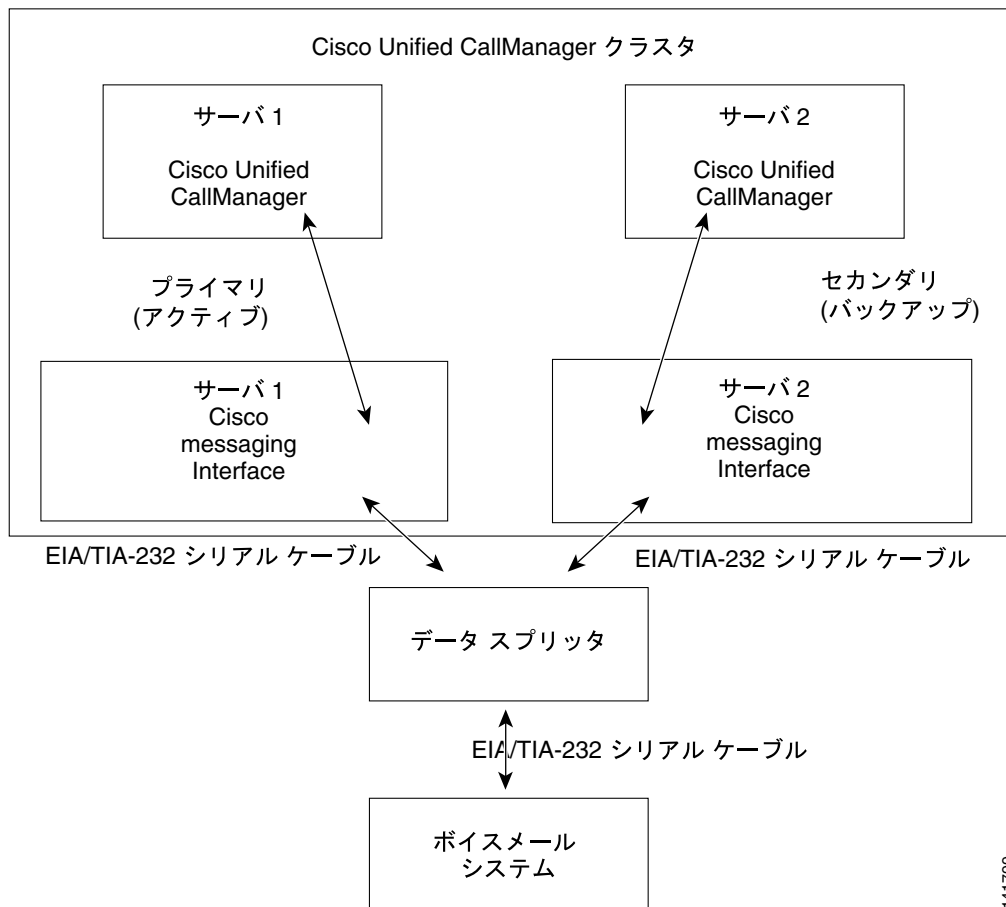
これらの各デバイスエントリの選択は、異なる順序にも、同じ順序にもできます。

## Cisco Messaging Interface の冗長化

EIA/TIA-232 シリアル ケーブル（従来の呼称は RS-232 ケーブル）を使用して電話機システムと通信するほとんどのボイスメールシステムには、シリアルポートが 1 つだけあります。Cisco Unified CallManager クラスタ内の別々のサーバ上で複数の Cisco Messaging Interface サービスを実行して、後述するデータ スプリッタなどの追加ハードウェアを使用することにより、Cisco Messaging Interface を冗長化できます。

各 Cisco Messaging Interface のコピーは、それぞれプライマリとバックアップの Cisco Unified CallManager に接続され、同一の VoiceMailDn および VoiceMailPartition サービス パラメータの値を使用して Cisco Unified CallManager に登録されます。サービス優先順位の高い Cisco Messaging Interface（アクティブ Cisco Messaging Interface サービス）が、SMDI の処理を受け持ちます。この Cisco Messaging Interface に問題が発生した場合は、別の Cisco Messaging Interface が処理を引き受けることができます。図 30-1 に、Cisco Messaging Interface を冗長化するためのさまざまなレイアウトのうちの一例を示します。

図 30-1 Cisco Messaging Interface の冗長化



141799



(注)

Cisco Messaging Interface を冗長化するには、図 30-1 に示すデータ スプリッタなどのデバイスを使用して、SMDI メッセージングを各種 Cisco Messaging Interface サービスから分離する必要があります。通常の Y 型シリアル ケーブルを使用して EIA/TIA-232 ストリームを結合することはできません。

ボイスメールシステムに接続するデータ スプリッタ、たとえば、B&B Electronics モデム データ スプリッタ（モデル 232MDS および 9PMDS）は、次の特性を備えている必要があります。

- 高信頼性
- バイディレクショナル通信
- 最小の伝搬遅延
- 外部ソフトウェアのサポートが不要（推奨）
- 余分な EIA/TIA-232 制御回線動作がない（推奨）

232MDS は、DB25 オス型ポート 2 つと DB25 メス型ポート 1 つを備えています。9PMDS は、このモデム データ スプリッタの DB9 バージョンです。これらのスイッチを使用し、ValidateDNs Cisco Messaging Interface サービス パラメータを *False* に設定すると、次の制限のもとで Cisco Messaging Interface を冗長化できます。

- 2 つの Cisco Messaging Interface が SMDI メッセージを同時に伝送できない。極端な状況下では、Cisco Unified CallManager クラスタが接続不可の 2 つの部分に分断されるネットワーク障害が発生することがあります。万一この状況が発生した場合、両方の Cisco Messaging Interface のコピーがアクティブになって、ボイスメールシステムに SMDI メッセージを同時に送信する可能性があります。この場合、衝突によりボイスメールシステムに不正確なメッセージが送信されるため、コールが正常に処理されないことがあります。

## SMDI 設定チェックリスト

表 30-1 に、SMDI を使用しているボイスメール システムを統合するために必要な手順の概要を示します。

表 30-1 SMDI 設定チェックリスト

設定ステップ	関連した手順と項目
<b>ステップ 1</b> ゲートウェイ ポートを追加し、設定します。  Octel システムを設定していて、かつ Cisco Catalyst 6000 24 ポート FXS アナログ インターフェイス モジュール または AST ポートを使用する場合は、各ポートの Call Restart Timer フィールドを 1234 に設定する必要があります。	『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「Cisco Unified CallManager へのゲートウェイの追加」
<b>ステップ 2</b> ルートグループを作成し、 <b>ステップ 1</b> で設定したゲートウェイ ポートをルートグループに追加します。	『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「ルートグループの設定」
<b>ステップ 3</b> <b>ステップ 2</b> で設定したルートグループを含むルートリストを作成します。	『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「ルートリストの追加」
<b>ステップ 4</b> ルートパターンを作成します。	『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「ルートパターンの設定」
<b>ステップ 5</b> Cisco Messaging Interface サービスを有効にし、設定して、実行します。	『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』  『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
<b>ステップ 6</b> Cisco Messaging Interface トレースパラメータを設定します。	『Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド』  『Cisco Unified CallManager Serviceability システムガイド』
<b>ステップ 7</b> ボイスメールシステムを設定し、EIA/TIA-232 ケーブルを使用してボイスメールシステムを Cisco Unified CallManager に接続します。	システムに付属の資料を参照してください。

## 参考情報

### 参考資料

- 『Cisco Unified CallManager アドミニストレーションガイド』の「サービスパラメータの設定」
- Cisco Unified CallManager Serviceability アドミニストレーションガイド
- Cisco Unified CallManager Serviceability システムガイド
- Cisco Unified Communications Solution Reference Network Design (SRND)